

～ タイムリーな情報を、いち早く皆様にお知らせします ～

◆業界間の総合革新が遅れている／物流業界の検討

1. 物流革新イメージ

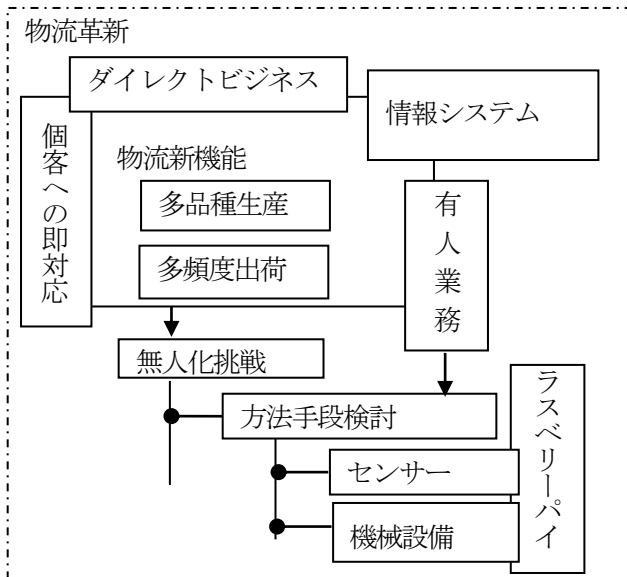
倉庫は消費と製造の量的食い違いの調整機能を担っていた。現代ではこのギャップへの対応の革新や発生させないような技術が創造されている。

消費と製造の量的ギャップを発生させないように、製造機能の改造や管理システムの革新の検討が起こっている。要は多品種生産多頻度出荷が出来る工場革新が検討され出した。

また、混在物流や一括多頻度物流の無人化の検討が行われたり、高速道路インターチェンジ近くにトランジェット機能中心の物流基地を建設する話しに会うようになった。新機能の流通基地が建設される一方で余剰化する旧倉庫が出てくる。

2. 旧倉庫の活用

加工機能は有人の機械的方法手段から無人化指向の装置化や化学工学化する傾向にある。装置化や化学工学化は、従来の工場スタイルでなくても箱型の構造が適しているともいえる。すなわち、都市型工場や倉庫型工場などといった製造現場でも対応可能である。



物流革新や製造革新で新物流基地が増える一方で、旧倉庫が余剰化する兆しが見えた。

これらは、新製造機能のための新タイプの工場としての活用に適した物件ともいえる。

3. 物流業界と製造業界との革新交流が出来るか

不動産屋任せで新業種製造工場探しや適正な仲介が出来るのだろうか。革新交流は、双方の経営視点で検討できる仲介者が必要だ。

◆久しぶりにベトナムを訪問しました

コロナの中でも日本の停滞気味で一喜一憂した産業界の動きに比べ、ベトナムは前を向いて元気よく動いている。この雰囲気の違いは、これからの時代を物語っているように感じる。

二次、三次産業から一次産業の近代化に重点が広がっている。農業や漁業の近代化は、人口の多いベトナムでは日本の旧来方式の自働化に着目し人・機械の協働化を検討している。

また、医療や介護などの社会も近代化が検討されだしている。日本の成功と失敗を参考にして、更に対象者だけでなく働く人も親族も含めて人にやさしい医療・介護社会を創ろうとしている。

ベトナムのこのような動きのなかで、いくつかの案件のプロジェクトに取り組むことになりそうだ。

◆日本の中小企業が世界で生きる

新素材の改良、モノづくりの独自性を持つことである。

独創的な発想で産業を誕生させたり成長させたりは出来ないが、誕生した新素材を具体化したり、生産方式を確立したりグレードを上げたりすることに、存在性がある。

特に、治工具などを始め製造方式を開発・改良する生産技術はこれからの時代で世界的存在性を示す重要な要素となる。

◆新時代を早期実現するビジネスマッチング

新事業開発・軌道化の期間は今まで3～4年ほどかかっていた。

近年、開発・軌道化はますます難しくなっているが、世界的な動きは1年でも競争にならない。

短期間に誰でも開発・軌道化出来る新事業は世界的生存競争がひどい。日本の特徴を活かした「より高品質の、より利用者指向的な」新商品の中堅中小企業の事業化を単独で取り組むのは時間が掛かり過ぎビジネスのチャンスを失う危険性がある。

機能の相性だけでなく、理念の相性・風土の相性も配慮して、マッチング相手を常日頃から考えておきたい。

詳しい記事やその他の情報は、BSOのホームページ <http://www.bso.co.jp> へ

情報てんこもりは、弊社の協働活動（受託事業・企画事業・出版事業）のタイムリーな情報をいち早く多くの方々に知っていただく為に発信しております。（お問い合わせはshienkikaku@bso.co.jpまで）